

平成27年2月吉日

会員各位

公益社団法人高知県理学療法士協会  
教育部部長 塚本 琢也

## 第25回高知県理学療法士協会新人発表学術集会のご案内

新人発表学術集会を平成27年3月22日（日）土佐リハビリテーションカレッジにて下記の通り開催致します。つきましては、プログラム及び日程表を送付致します。なお駐車場には限りがありますので、なるべく乗り合わせの上お越し下さることをお願い致します。

### 本学術集会へ参加される会員の皆様へのお知らせ（重要）

ご来場の際は必ず受付で参加登録をお願いします。その際、会員証カードが必要です。忘れずにご持参ください。本学術集会終了後、参加証明書を発行しますので参加者は必ず受理されますようお願いいたします。なお、本学術集会は、新人教育プログラムにおいて発表者はC-6症例発表（3単位）、参加者はC-7士会活動・社会貢献（3単位）の履修にあたります。また認定・専門領域課程の会員の方は「学会参加（10ポイント）」が付与されますので、該当する会員の方は、日本理学療法士協会ホームページ内の「協会・士会主催研修会」から事前にweb申請して頂きます様宜しくお願い致します。登録期日は2月28日まで延長しています。

### 演者へのお知らせ

- 1) 発表形式はポスター発表とします。
- 2) 当日受付を終了した演者は、受付終了後、責任者に従ってポスターを貼付してください。受付時間は13:00～13:30です。
- 1) 演題の要約を、機関紙「高知県理学療法」に掲載します。発表者は1200字程度（図表は認めない）で、同封の「高知県理学療法 新人発表 掲載原稿作成の手引き」に従い要約を作成し、データ（USB）と一緒に発表当日受付に提出してください。データのファイル名は、セッション番号・氏名・施設名（例；S1-1・田中太郎・〇〇病院）でお願いします。原稿は複写製版しますので、汚れや折り目を付けないように注意してください。
- 2) 演者発表時間5分を目安に、質疑応答を含め1セッション60～70分となっています。
- 3) ご担当の時間内で、活発な討議が行われるようお取り計らい下さい。を「

### 新人発表会日程

13:00

13:30

14:15

14:20

15:40

16:50

受付開始 ポスター貼付					
閲覧					
新人発表会開会式					
S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
S-7	S-8	S-9	S-10	S-11	S-12
閉会式					

## 新人発表 掲載原稿作成の手引き

- 1) 掲載原稿は以下の要領で作成し、A4サイズ用紙に各自プリントアウトし提出してください。
- 2) ワードプロ・パソコンで作成してください。用紙設定は以下を参考におこなってください。  
編集作業の都合上、上下左右の余白は必ず設定してください。

ワードソフトの場合

- ・「ファイル」→「ページ設定」を開く
- ・「文字数と行数」タグ「文字方向」の横書きを選択し、「段数」を2とする。
- ・「文字数と行数の指定」は「標準の文字数と行数」を選択する。
- ・次に、「余白」タグで余白を右・左・上をそれぞれ20mmに、下は30mmに設定する
- ・最後に「OK」を押すと設定が完了します。

- 3) タイトルは明朝12ポイント強調文字とし、左揃えとなるようにしてください。
- 4) 副題がある場合は明朝10ポイントとし、左揃えとせず、中央揃えとなるようにしてください。
- 5) タイトル字数が多い場合はバランスを考慮しながら改行してください。
- 6) 9ポイントで1行空行をはさみ、施設名と氏名を入れてください。  
施設名と氏名は明朝9ポイントとしてください。
- 7) 施設名の後、2字空け氏名を入れてください。なお、施設名・氏名は右揃えとしてください。
- 8) 9ポイントで1行空行をはさみ、本文を入れてください。  
本文は明朝9ポイントとしてください。
- 9) 本文は原則的に、【はじめに】・【対象】・【方法】・【結果】・【考察】に分けて下さい。  
症例研究の場合、必要に応じ【症例紹介】・【経過】等の項目を追加してください。
- 10) 本文は文字のみとします。画像等をレイアウトしないでください。
- 11) 本文は横25文字×51行を目安に1,200字程度にまとめてください。
- 12) 原稿提出に際しては、厚紙などで原稿の保護に努めて下さい。

<掲載原稿作成に関するお問い合わせ>

〒780-0056 高知市北本町1-2-6

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

理学療法室 塚本 琢也

TEL 088-822-5231 (代)

演題名(明朝12pt)左揃え

副題がある場合は明朝10pt中央揃え

施設名〇〇2字空け氏名 9pt右揃え

本 文

明朝 9pt

# 第25回 高知県理学療法士協会新人発表学術集会(平成26年度) (演題プログラム)

## セッション1(整形)

座長 田中整形外科病院 西森 絵里

S1-1	宗石 憲昇	ムネイシ ケンショウ	高知赤十字病院	大腿骨顆上骨折術後の理学療法を経験して
S1-2	下元 崇司	シモモト タカシ	白菊園病院	腰部脊柱管狭窄症に開腹術後廃用症候群をきたした症例～歩行に着目して～
S1-3	中山 照教	ナカヤマ テルノリ	白菊園病院	梨状筋症候群を呈した症例を経験して～疼痛軽減を目指して～
S1-4	西尾 正悟	ニシオ ショウゴ	田野病院	右脛骨開放骨折・腓骨骨折術後の症例へのアプローチ
S1-5	片岡 未生	カタオカ ミオ	町田整形外科	肩関節鏡視下縫合術後に外転運動獲得が難渋した症例 ～代償動作改善プログラムの考察～
S1-6	池 剛史	イケ ツヨシ	高知病院	骨盤骨折を呈した高齢女性を経験して
S1-7	土居 由香	ドイ ユカ	高知病院	右膝前十字靭帯損傷に外側半月板損傷を合併した症例について ～スポーツ復帰に向けたアプローチ～
S1-8	高石 翔	タカイシ ショウ	川田整形外科	ACL再建術後の完全伸展獲得(HHD)の際に認知課題を実施した一症例

## セッション2(整形)

座長 くぼかわ病院 西村 慎悟

S2-1	片岡 亜理沙	カタオカ アリサ	島本病院	両足腓骨神経麻痺を呈した症例～移乗動作に着目して～
S2-2	西村 菜々	ニシムラ ナナ	田野病院	左大腿骨頸部骨折により左膝関節の疼痛が悪化した症例 ～疼痛・荷重量の変化に着目して～
S2-3	田村 友広	タムラ トモヒロ	独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院	腰椎圧迫骨折患者に対し、セルフエクササイズを実施した症例 ～膝伸展筋力強化を目的に～
S2-4	吉永 みづ紀	ヨシナガミヅキ	近森病院	左TKA術後患者の移乗動作獲得に向けた坐位でのアプローチ ～右TKAと関節リウマチを既往にもつ症例を担当して～
S2-5	中尾 良成	ナカオ リョウセイ	高知病院	右股関節伸展制限を呈し、心理的要因により基本動作の獲得に難渋した症例
S2-6	郷本 堯宏	ゴウモト タカヒロ	高知病院	右TKA施行後、膝関節屈曲角度獲得に難渋した症例
S2-7	松田 英朗	マツダ ヒデアキ	近森病院	疼痛と難聴により理学療法遂行に難渋した大腿骨転子部骨折患者を経験して

## セッション3(整形)

座長 佐川町立高北国民健康保険病院 平井 貴雄

S3-1	西尾 峻	ニシオ リョウ	竹本病院	右大腿骨頸部骨折を既往にもち同側大腿骨骨幹部骨折を生じた症例を経験して
S3-2	川村 昌史	カワムラ マサフミ	高陵病院	右踵骨骨折患者に対する理学療法の一例 ～術後の荷重時痛と歩容の変化に着目して～
S3-3	田島 健太朗	タシマ ケンタロウ	愛宕病院	デュシャンヌ徴候の改善がみられた人工股関節置換術後の一症例 ～身体の空間的な位置情報の認識に着目して～
S3-4	柿本 裕斗	カキモト ユウト	愛宕病院	左大腿骨転子部骨折後にトレンデレンブルグ歩行を呈した症例
S3-5	森尾 勇希	モリオ ユウキ	高知病院	家族の要望の変化に対応し、難渋した症例
S3-6	吉村 笑莉子	ヨシムラ エリコ	須崎くろしお病院	短縮されたTHAパスを使用した一症例～メンタルケアの必要性～
S3-7	佃 匡人	ツクダ マサト	須崎くろしお病院	術前より著明な筋力低下が存在したTHA術後の症例を経験して

## セッション4(中枢)

座長 田野病院 細田 隆之

S4-1	田邊 収一	タナベ シュウイチ	もみのき病院	「している能力」と「できる能力」に着目してアプローチした一症例
S4-2	中澤 佑介	ナカザワ ユウスケ	近森リハビリテーション病院	非麻痺側の筋活動に依存した姿勢制御により歩行困難であった症例に対するアプローチ
S4-3	青木 千茄	アオキ チカ	南国中央病院	脳血管障害を再発した症例～在宅復帰への関わり～
S4-4	中西 晃毅	ナカニシ コウキ	南国中央病院	脳梗塞を呈した症例の起居動作獲得に向けた取り組み
S4-5	島崎 省伍	シマサキ ショウゴ	近森病院	慢性硬膜下血腫術後に回復遅延を認めた症例の自宅退院に向けた取り組み
S4-6	佐伯 志緒	サエキ ショウ	近森オルソリハビリテーション病院	頸椎症性脊髄症により歩行障害を呈した症例
S4-7	杉本 奈穂	スギモト ナホ	近森リハビリテーション病院	協調運動障害を呈した急性頸椎硬膜外血腫術後患者のフリーハンド歩行自立に向けたアプローチ
S4-8	中西 望	ナカニシ ノゾミ	野市中央病院	脳梗塞によりブツチャー症候群を呈した症例 ～トイレ動作獲得を目指したアプローチ～

**セクション5(中枢)****座長 近森リハビリテーション病院 平山 肇**

S5-1	松崎 佑紀	マツサキ ユウキ	もみのき病院	訓練意欲低下を認めた脳卒中片麻痺患者に対して歩行能力向上を目指した一例 ～移動手段の変更に着目して～
S5-2	尾中 純大	オナカ スミヒロ	南国中央病院	脳梗塞(右片麻痺)患者の歩行獲得に向けて
S5-3	東 賢太郎	ヒガシ ケンタロウ	愛宕病院	脳梗塞左片麻痺により左下肢振り出し動作が難渋した症例
S5-4	松本 瑞希	マツモト ミズキ	白菊園病院	高次脳機能障害を呈する左片麻痺患者のトイレ動作獲得に向けて
S5-5	藤岡 亮	フジオカ リョウ	近森病院	転倒を繰り返す多系統萎縮症患者に対する、自宅生活を想定した関わり
S5-6	谷岡 孝治	タニオカ コウジ	野市中央病院	転倒恐怖感に対するアプローチ～移乗動作の獲得を目指して～
S5-7	中内 寿人	ナカウチスミト	リハビリテーション病院すこやかな杜	左片麻痺を呈した症例に環境調整と福祉機器導入 ～老老介護軽減を目的としたアプローチについて～
S5-8	吉名 祐人	ヨシナ ユウト	独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院	脳血管障害患者における片脚立位に対する質的評価 ～片脚立位姿勢および時間とADLの変化について～

**セクション6(生活環境・物理療法)****座長 訪問リハビリテーション ちかもり 小松 弘典**

S6-1	森澤 羅	モリサワ アミ	内田脳神経外科	高齢者に対する足底知覚学習トレーニング～転倒予防を目的として～
S6-2	新谷 幸巳	ニイヤ ユキミ	竹本病院	装具の適応判断に難渋した片麻痺患者を経験して
S6-3	門脇 桃子	カドワキ モモコ	南国中央病院	小腸切除・右半側結腸切除後にIVHを留置した症例 ～在宅生活での持続的点滴管理が自立して行えるように～
S6-4	武政 康太	タケマサ コウタ	清和病院	アルツハイマー型認知症を呈した症例を経験して
S6-5	幾井 稜	イクイ リョウ	介護老人保健施設あいおい	脳梗塞後遺障害を有する若年利用者を担当して
S6-6	礪 祐貴	イソ ユウキ	近森オルソリハビリテーション病院	TKA術後患者の自宅内歩行再獲得に向けた関わり
S6-7	大石 さおり	オオイシ サオリ	北島病院	外来歩行患者の転倒回避における足部評価の重要性
S6-8	鍋島 響	ナベシマ ヒビキ	北島病院	低周波治療が後期高齢者糖尿病患者に与える影響

**セクション7(整形)****座長 みちなか整形外科クリニック 川島 隆史**

S7-1	川崎 綾香	カワサキ アヤカ	愛宕病院	不安定な歩行により、転倒を繰り返していた腰椎圧迫骨折患者 ～重心の偏位に着目して～
S7-2	澤田 純	サワダ ジュン	だいいちリハビリテーション病院	大腿骨近位部骨折を呈した症例を経験して
S7-3	國久 準	クニヒサ ジュン	吉井病院	右肩関節前方脱臼に大結節骨折を伴った症例を経験して
S7-4	有澤 麻里那	アリサワ マリナ	南国中央病院	左大腿骨頸部骨折によりDHSを施行した症例
S7-5	恒石 梨花	ツネイシ リカ	南国中央病院	足部からの影響を考慮した膝痛へのアプローチ
S7-6	大泉 太一	オオイズミ タイチ	高陵病院	左膝蓋骨骨折した患者における歩行能力について ～立位バランス能力に着目して～
S7-7	鍋島 陽磨	ナベシマ ヨウマ	高陵病院	上下肢ROM制限のため起き上がりに難渋した独居希望の症例
S7-8	前田 典義	マエダ ノリヨシ	いずみの病院	膝蓋骨骨折患者の自宅復帰に向けて～入浴動作に着目した一例～

**セクション8(整形)****座長 近森オルソリハビリテーション病院 出永 紘一**

S8-1	所谷 拓弥	トコロダニ タクヤ	竹本病院	下肢関節可動域制限を有した症例に対するアプローチを経験して ～日常生活動作改善に向けた取り組み～
S8-2	長野 純也	ナガノ ジュンヤ	竹本病院	両変形性股関節症を有した症例～姿勢改善に向けた取り組み～
S8-3	手島 議起	テシマ ヨシキ	だいいちリハビリテーション病院	第2、5腰椎圧迫骨折を呈する症例を経験して
S8-4	川村 香菜	カワムラ カナ	だいいちリハビリテーション病院	右麻痺側大腿骨転子部骨折を呈した症例を経験して
S8-5	門田 健太	カドタ ケンタ	フレッククリニック	左THAを施行した一例～立位姿勢に着目して～
S8-6	島崎 由宇	シマサキ ユウ	フレッククリニック	滑膜ヒダ障害を呈し、鏡視下滑膜切除術を施行した一例 ～理学療法中に生じた痛みへのアプローチ～
S8-7	土居 優仁	ドイ ユウト	野市中央病院	膝蓋靭帯断裂を担当して～歩行能力に着目した症例～
S8-8	矢野 雄也	ヤノ ユウヤ	田中整形外科病院	保存療法による高齢者大腿骨頸部骨折の理学療法を経験して

## セッション9(中枢)

座長 南国中央病院 長田 陽介

S9-1	澤田 悠里	サワダ ユリ	井上病院	脊髄小脳変性症患者を経験して～歩容改善に着目して～
S9-2	高橋 浩輔	タカハシ コウスケ	もみのき病院	恐怖心に伴う活動制限が運動学習理論での介入で改善を認めた一症例
S9-3	横内 克之	ヨコウチ カツユキ	田野病院	左中大脳動脈梗塞により右片麻痺を呈した症例
S9-4	眞明 寛和	シンメイ ヒロカズ	南国中央病院	心原性脳塞栓症を呈した症例～在宅復帰を目指して～
S9-5	宮部 陽路	ミヤベ ヨウジ	愛宕病院	体幹の左右比較課題により歩行能力に改善を認めた症例
S9-6	小川 和輝	オガワカズキ	リハビリテーション病院すこやかな杜	両側性片麻痺患者を担当して～車椅子座位姿勢に着目した一症例～
S9-7	森 啓太	モリ ケイタ	白菊園病院	脳卒中片麻痺患者の歩行アプローチについて～屋内歩行自立に向けて～
S9-8	中田 晃介	ナカタ コウスケ	野市中央病院	右片麻痺を呈した症例を通して

## セッション10(内部障害)

座長 国立病院機構 高知病院 神野 麻耶子

S10-1	西森 裕祐	ニシモリ ユウスケ	近森病院	活動性の低下した多発性肝嚢胞患者の主体的な身辺動作獲得に向けた関わり
S10-2	濱田 涼太	ハマダ リョウタ	高知医療センター	小児Ph陽性急性リンパ性白血病の一症例 ～意欲向上・独歩再獲得に対する関わり～
S10-3	松村 祐貴	マツムラ ユウキ	いずみの病院	易疲労により離床に難渋した症例を経験して
S10-4	小笠原 美紀	オガサワラミキ	近森病院	入院中に心不全の増悪をきたした患者に対するリスク管理と離床
S10-5	小松 由佳	コマツ ユカ	いずみの病院	低栄養状態を呈した透析患者に対する理学療法を経験して
S10-6	大崎 優	オオサキ ユウ	近森病院	潰瘍性大腸炎の増悪によりADL向上に難渋した多発骨折患者を経験して
S10-7	永田 林太郎	ナガタ リンタロウ	近森病院	消化器合併症により活動制限を来たした高侵襲開腹術後の一症例
S10-8	濱田 恵美	ハマダ メグミ	須崎くろしお病院	肺炎による慢性呼吸不全急性増悪を呈した症例を経験して

## セッション11(基礎)

座長 近森病院 吉川 大祐

S11-1	田中 未優	タナカ ミユウ	いずみの病院	パーキンソン病患者の歩行の特徴～重心加速度計を用いての検証～
S11-2	森岡 美里	モリオカ ミサト	木俣病院	パーキンソニズムを呈し歩行不全と診断された症例を経験して
S11-3	渡辺 夏歩	ワタナベ カホ	近森オルソリハビリテーション病院	大腿骨頸上骨折を受傷した一症例
S11-4	芝 歆奈	シバ カンナ	いずみの病院	長期臥床中に片麻痺症状が出現した症例に対する端座位保持能力向上に向けてのアプローチ
S11-5	小野 雄太	オノ ユウタ	内田脳神経外科	運動パターンの変化により洗濯動作が円滑に行えるようになった症例
S11-6	原 猛	ハラ タケシ	いずみの病院	小刻み歩行を呈するパーキンソン病患者を経験して ～視覚的キューに着目して～
S11-7	横山 智也	マキヤマ トモヤ	いずみの病院	パーキンソン病を呈した症例を経験して～離床に向けた介入もしくは取り組み～
S11-8	西本 大樹	ニシモト ダイキ	北島病院	ベッド上臥位におけるポジショニングが自律神経活動にあたる影響

## セッション12(生活環境)

座長 土佐リハビリテーションカレッジ 滝本 幸治

S12-1	三谷 昂	ミタニ アキラ	関田病院	在宅復帰の難事例を経験して
S12-2	三本 真ノ介	ミモト シンノスケ	永井病院	地域在住高齢者に対する理学療法士の役割と関わり ～外来リハビリテーション開始となった一症例を通して～
S12-3	片岡 達哉	カタオカ タツヤ	高知整形・脳外科病院	住環境整備への取り組みを経験して
S12-4	花岡 里菜	ハナオカ リナ	高知生協病院	社会的困難を乗り越えて在宅に繋がった症例
S12-5	橋詰 卓人	ハシヅメ タクト	高知生協病院	術後早期に退院前訪問を実施した事でより具体的な生活動作へ介入出来た症例
S12-6	西田 佳祐	ニシダ ケイスケ	永井病院	デイケア利用者に対する理学療法を経験して
S12-7	濱田 啓太	ハマダ ケイタ	独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院	認知症患者の移乗動作獲得に向けた取り組み ～応用行動分析的アプローチ～